

群馬県内の山岳遭難発生状況（平成28年中）

1 発生状況

	発生件数 (件)	遭難者数 (人)	死 亡	救 出		行方不明
				怪我あり	怪我なし	
平成28年	77	87	13	55	18	1
平成27年	120	142	11	83	47	1
前 年 比	-43	-55	+2	-28	-29	±0

注：件数・遭難者数は、警察認知に基づく数字を計上



2 山岳別発生状況

山岳別	管 轄 警察署	発 生 件 数	件数 比率 (%)	遭 難 者 内 訳 (人)					計
				死亡	不明	重傷	軽傷	怪なし	
谷 川 連 峰	沼 田	18(19)	23.3	2		5	10	2	19
尾 瀬	沼 田	15(48)	19.5			8	6	1	15
妙 義 山 系	富岡・安中	8(9)	10.4	2		3	2	1	8
至 仏 山	沼 田	7(5)	9.1	2		1	4	2	9
日 光 白 根 山	沼 田	4(5)	5.2	1			2	1	4
榛 名 山 系	高崎・渋川・妻	3(1)	3.9				2	1	3
武 尊 山	沼 田	2(5)	2.6	1			1		2
荒 船 山	富 岡	2(1)	2.6	2	1				3
赤 城 山 系	前橋・渋川	2(4)	2.6			1	1		2
岩 櫃 山	吾 妻	2(1)	2.6	1		1			2
ト ヤ 山	富 岡	1	1.3					4	4

稲含山	富岡	1	1.3					3	3
鉢山	吾妻	1	1.3					2	2
立岩	富岡	1	1.3			1			1
高田山	吾妻	1(1)	1.3	1					1
戸神山	沼田	1	1.3			1			1
黒斑山	長野原	1	1.3			1			1
嵩山	吾妻	1	1.3				1		1
吾妻山	桐生	1	1.3	1					1
四阿山	長野原	1	1.3				1		1
その他の山岳	—	4(21)	5.2			3		1	4
総数	—	77(120)	—	13	1	25	30	18	87

※ ()内は、H27の発生件数

3 目的別発生状況

目的別	発生 件数	件数 比率(%)	遭難者内訳(人)					
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	計
登山	63(103)	81.8	11	1	17	28	15	72
スキー登山	3(4)	3.9	1		1		2	4
ロッククライミング	3(1)	3.9			3			3
沢登り	2(2)	2.6			2			2
写真撮影	2(1)	2.6				1	1	2
狩猟	1	1.3			1			1
不明	1	1.3	1					1
その他	2(9)	2.6			1	1		2
総計	77(120)	—	13	1	25	30	18	87

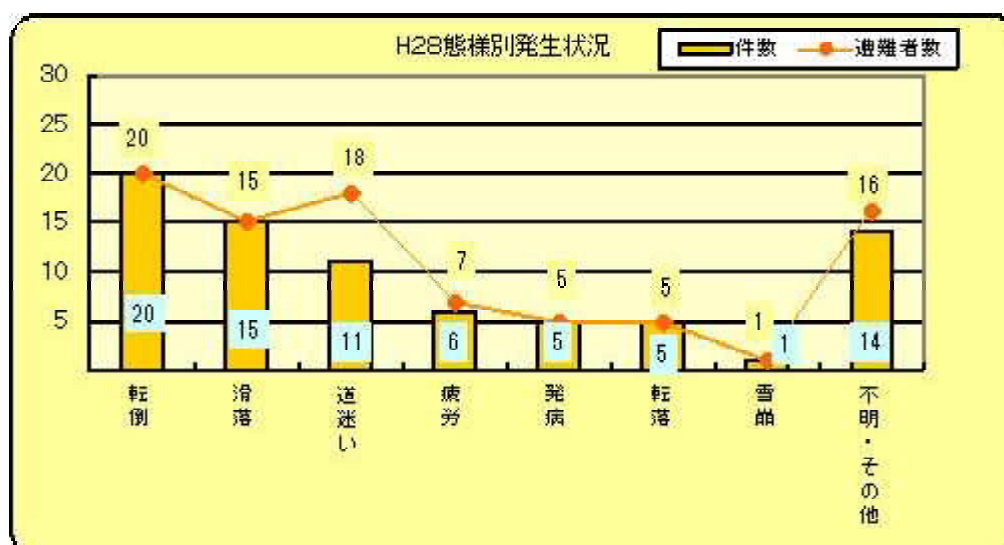
※ ()内は、H27の発生件数



4 態様別・原因別発生状況

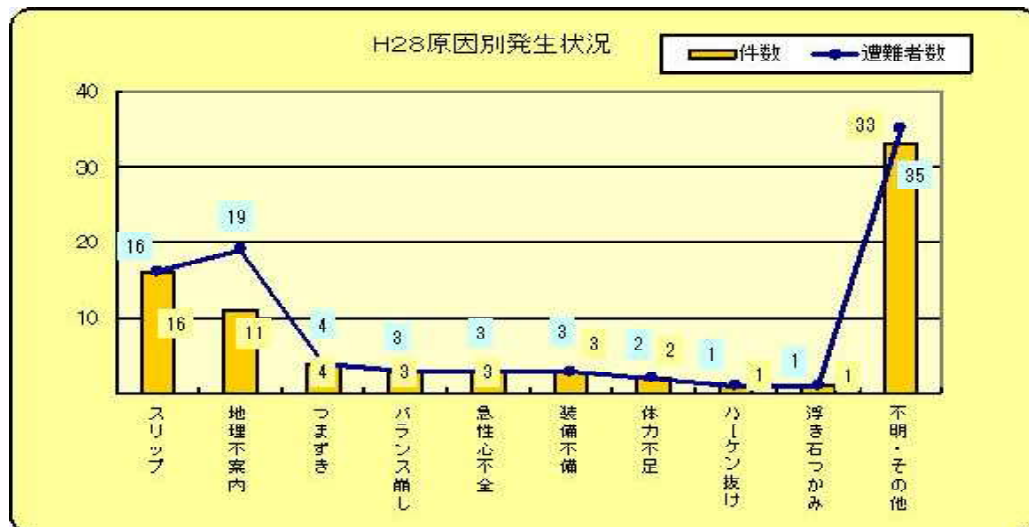
- 態様別発生状況

態様別	発生 件数	件数 比率(%)	遭難者内訳(人)					計
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	
転倒	20	26.0			8	12		20
滑落	15	19.5	2		11	2		15
道迷い	11	14.3			1	1	16	18
疲労	6	7.8				5	2	7
発病	5	6.5	4			1		5
転落	5	6.5	1		3	1		5
雪崩	1	1.3	1					1
不明	4	5.2	5	1				6
その他	10	13.0			2	8		10
総計	77	—	13	1	25	30	18	87



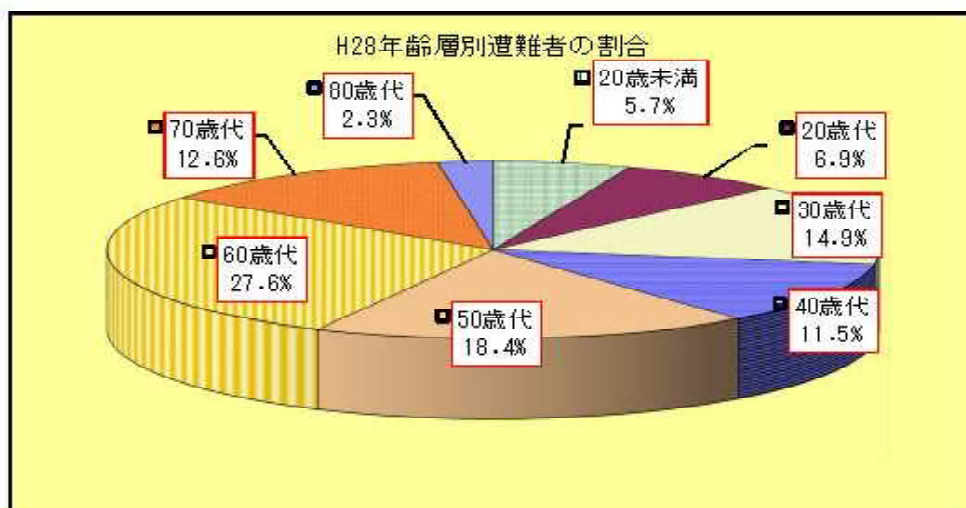
原因別発生状況

	発生 件数	件数 比率 (%)	遭 難 者 内 訳 (人)					計
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	
スリップ	16	20.8			10	6		16
地理不案内	11	14.3			1	3	15	19
つまずき	4	5.2			2	2		4
バランス崩し	3	3.9			2	1		3
急性心不全	3	3.9	3					3
装備不備	3	3.9				3		3
体力不足	2	2.6					2	2
ハーケン抜け	1	1.3			1			1
浮き石つかみ	1	1.3			1			1
不明	6	7.8	7	1				8
その他	27	35.1	3		8	15	1	27
総 計	77	—	13	1	25	30	18	87



5 年齢層別発生状況

年齢別		遭 難 者 内 訳 (人)							計	
		死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	計	比 率		
年 齢 層 別 発 生 状 況	20歳未満		1		3	1	5	5.7	24人 (27.6%)	
	20歳代	1		1	3	1	6	6.9		
	30歳代	3		3	4	3	13	14.9		
	中	40歳代	2		5	1	2	10	11.5	63人 (72.4%)
	高	50歳代	2		6	2	6	16	18.4	
年	60歳代	4		6	11	3	24	27.6		
生	70歳代	1		3	5	2	11	12.6		
状 況	80歳以上			1	1		2	2.3		
総 数		13	1	25	30	18	87	—	—	



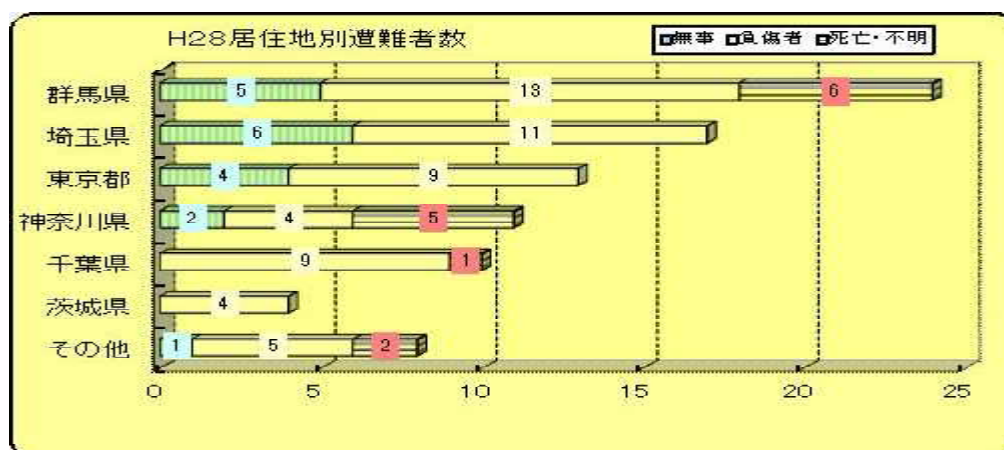
6 過去における中高年齢層の遭難発生状況

年 別	H24	H25	H26	H27	H28
遭難者総数(人)	116	81	107	142	87
中高年齢層(人)	74	68	88	112	63
比 率 (%)	63.8%	84.0%	82.2%	78.9%	72.4%



7 居住地別発生状況

居住地別	遭難者数	遭難者 比率(%)	遭難者内訳(人)					
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	
県内居住者	24	27.6	6		6	7	5	
県外居住者	63	72.4	7	1	19	23	13	
県外居住者の内訳	埼玉県	17	19.5			2	9	6
	東京都	13	14.9			6	3	4
	神奈川県	11	12.6	4	1	2	2	2
	千葉県	10	11.5	1		3	6	
	茨城県	4	4.6			3	1	
	栃木県	2	2.3	1			1	
	新潟県	2	2.3	1		1		
	富山県	1	1.1				1	
	山梨県	1	1.1					1
	宮城県	1	1.1			1		
	大阪府	1	1.1			1		



遭難者の居住地別状況（過去5年）

居住地別		年別				
		H24	H25	H26	H27	H28
群馬県		12	24	26	26	24
県外	東京都	38	17	22	27	13
	埼玉県	21	14	20	31	17
	茨城県	1	4	3	1	4
	千葉県		9	14	10	10
	神奈川県	29	5	10	17	11
	長野県		1			
	栃木県	10	3	3	6	2
新潟県			2		2	2

居 住 者 (人)	静岡県			1	3	
	大阪府				2	1
	福岡県	3	1			
	愛知県	1		1	2	
	福島県	1		1	3	
	岐阜県			1		
	大分県			1		
	兵庫県			1	1	
	奈良県				1	
	愛媛県			1	2	
	宮城県				1	1
	富山県			1		1
	和歌山県		1			
	岡山県				1	
	京都府				5	
	石川県				1	
	山梨県					1
	イギリス国籍			1		
	県外者総数	104	57	81	116	63

8 パーティー構成及び登山計画書提出状況

・ パーティー構成状況

	発生 件数	件数 比率(%)	遭難者内訳(人)					計
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	
単 独	19	24.7	3		6	6	4	19
2 人	25	32.5	6	1	6	11	6	30
3 人	11	14.3	2		4	3	4	13
4 人	9	11.7			5	3	4	12
5 人	3	3.9			2	1		3
6人以上	10	13.0	2		3	6		10
総 数	77	—	13	1	25	30	18	87

・ 登山計画書提出状況

	発生 件数	件数 比率(%)	遭難者内訳(人)					計
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	
提 出	17	22.1	4		7	8	3	22

未提出	60	77.9	9	1	18	22	15	65
総数	77	—	13	1	25	30	18	87

・ 山岳会等加入状況

	発生 件数	人数 比率(%)	遭難者内訳(人)					計
			死亡	不明	重傷	軽傷	怪我なし	
加入登山者	5	6.5			2	1	2	5
未加入登山者	72	93.6	13	1	23	29	16	82
総数	77	—	13	1	25	30	18	87

・ 登山経験年数別

登山経験 年数別	遭難者内訳(人)						計	比率(%)
	死者	不明	重傷	軽傷	怪我なし			
なし	4	0	11	8	8	31	21.8	
1～10年	1	0	23	19	22	65	45.8	
11～20年	1	0	4	6	8	19	13.4	
21～30年	1	0	1	0	0	2	1.4	
31～40年	0	0	1	2	1	4	2.8	
41～50年	2	1	2	2	1	8	5.6	
51年以上	1	0	1	0	1	3	2.1	
不明	1	0	2	1	6	10	7.0	
総数	11	1	45	38	47	142	—	

◎ 登山における注意点

最近における山岳遭難の特徴は、中高年登山者による遭難の増加です。特に体力の消耗による下山中の滑落・転倒事故や無理な計画による疲労が原因の事故、事前の調査不足による道迷い、健康チェックを怠った発病等が増加するとともに、無計画で安易な登山の末の道迷いにより日没を迎え、ヘッドライト等の採光具を持たないがために行動不能となり、救助要請が行われる事故が発生しています。

また、標高の高いところでは気温が急激に低くなり、冬山と同様な条件下になることも予想されますので、次の点に十分注意し、安全な登山を心掛けてください。

- 事前に登山コース、危険箇所等を確認し、十分な装備を準備し、経験や体力に見合った登山を行いましょう。
- 天候が急変した場合や、日没までに下山できない時は、無理することなく引き返しましょう。
- 家族等には、登山コースや帰宅時間、非常時の連絡方法等を告げるとともに、携帯電話や携帯無線機等の連絡手段を確保しておきましょう。
- 単独登山はできるだけ避けましょう。
- 万が一に備え、登山届(パソコン・携帯電話からの電子申請を含めた登山計画書)を提出しましょう。



※ 携帯電話からQRコードにアクセスすると、登山計画書の届け出ができます。